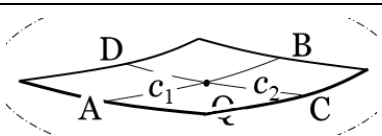
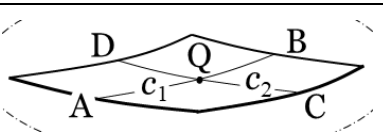


*教科書記載の注意事項：小さい文字で記載された問題は発展問題扱いです

第I部 (2024年 3月29日更新)

	誤	正
p.14 補足 1.5-3 の下の式	$=\dot{\phi}(-\mathbf{e}_x \sin\phi + \mathbf{e}_y \phi \cos\phi)$	$=\dot{\phi}(-\mathbf{e}_x \sin\phi + \mathbf{e}_y \cos\phi)$
p.42 補足 3.2-1 (1) 7行目の式	$\int_{C_{AB}} F_x dx = \int_{x_A}^{x_B} F(x, f(x)) dx$ $\int_{C_{AB}} F_y dy = \int_{y_A}^{y_B} F(g(y), y) dy$	$\int_{C_{AB}} F_x dx = \int_{x_A}^{x_B} F_x(x, f(x)) dx$ $\int_{C_{AB}} F_y dy = \int_{y_A}^{y_B} F_y(g(y), y) dy$

第II部 (2024年 3月29日更新)

	誤	正
p.227 式(11.74)の下1行目	式(11.44)のように	式(11.74)のように
p.227 式(11.74)の下5行目	質量保存則 $\rho S \Delta x' = \rho_0 S \Delta x$	質量保存則 $\rho S (\Delta x + \Delta u) = \rho_0 S \Delta x$
p.230 下から5行目	弦の横振動のエネルギーは空間的・時間的に一定ではなく <u>波の節の部分に局在</u> して、その場所 <u>は波とともに進行</u> することがわかる。弦の横振動の場合は波の節にエネルギーが集中するが、音波のような縦波でどうなるか、エネルギーの集中する場所を調べてみるとよい。	弦の横振動のエネルギーは空間的・時間的に一定ではなく <u>弦の変位0近傍に集中</u> して、その分布は波とともに進行することがわかる。音波のような縦波ではエネルギーはどこに集中するか、調べてみるとよい。
p.256 図12.11(b)拡大部分	 <p>Qが背面となり円弧とτに分かれている</p>	
p.256 式(12.15)の次の行	この表面張力による <u>上向き</u> の力と	この表面張力による <u>内向き</u> の力と
p.263 補足の下 3行目	このように定常流で各粒子間の <u>相対位置が変わらない</u> 流れを層流という。	このような流れを層流という。また、非定常流でも流線が層状を保ち緩やかにしか変化しない流れは層流である。
p.266 式(12.34)の左辺第2項	$\frac{1}{2} \rho \left(\frac{S_2}{S_1} \right) v_2^2$	$\frac{1}{2} \rho \left(\frac{S_2}{S_1} \right)^2 v_2^2$
p.268 図12.32の下	ベルヌーイの定理の応用(3)流速測定(ピトー管)	ベルヌーイの定理の応用：流速測定(ピトー管)
p.271 12行目	・・・条件が12.5.7項・・・	・・・条件が12.5.8項・・・
p.278 12.5.7の5行目	・・・, 円柱には流れの後方に・・・	・・・, 円柱は流れの後方に・・・
p.275 4行目	・・・層流(後述)の場合・・・	・・・層流の場合・・・